〈 東北・新潟の活性化応援プログラム 〉
2019年 助成団体活動成果レポート

助成団体

特定非営利活動法人 コミュサーあおもり

青森県青森市

プロジェクト名

フリースクール新校舎開校及び、直営食堂開設による地域住民との交流で生徒の心を育む事業

■地域の課題

平成27年(2015年)時点での青森県内の中学生不登校生徒数は991人、高校生不登校生徒数は271人で、県内において1262人もの中高生が学校に通えていない状況にあります(青森県教育委員会データブック2017)。平成30年(2018年)には小中高合計で1,591人が不登校になっています(文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導の諸課題に関する調査」)。

2019年度は市内中心街に事務所を構えるNPO法人とフリースクール校舎を併用していたため、受入可能人数が限られていました。今後、入校価値が高まるに連れ入校希望者増加が予想され、当初の事務所では手狭で入校者の受入が困難であり、1500人以上いる不登校生徒の内、ごく少数しか支援できない状態にありました。更に、中心街に立地しているため、生徒や保護者から、周囲の目が気にならないプライバシーに配慮した場所への移転を希望する声が寄せられていました。

■当団体の紹介

不登校の子供たちの居場所づくりのために、フリースクールの新校舎開設に向けた準備を進めます。また、フリースクールの運営資金確保を目的にコミュニティ食堂の開設を目指しています。

プロジェクトの概要

■背景・目的は？

大人数の生徒を受入可能な独立校舎を開設することで、今後増加が見込まれる入校希望者を受け入れることができ、県内で悩みを抱えるより多くの不登校生徒に対して、学習の遅れや社会とコミュニケーションをとる機会を与えることが可能となります。また、人が行き交う中心街から移転することで、生徒・保護者が周囲の目を気にすることなく、安心して登下校や送迎することができ「自分は自分で良い」という自己肯定感を促します。

■具体的な活動は？

フリースクール新校舎を、中心街事務所から離れた地区に、二階建て一軒家の賃貸物件を借用し、2019年7月に開校しました。部屋数が増え(ワンフロアから8LDK一軒家へ移転)、冷暖房設備などがほとんどない状況で、移転した夏には熱中症が懸念されるほどの暑さ、冬には室内でも0度前後の状況となることが具体的にわかったため、当初予定していた生徒たちの過ごす場所の環境整備に必要な機材等の購入、設置を行いました。

具体的には生徒が学習に専念できる環境や、寛げる環境へと改修工事を行いました。

スタッフ事務室と生徒等の懇談室、学習ルームにはFF式ファンヒーターを設置。

物作りスペース、卓球ルーム、キッチン等では持ち運びのできるストーブを設置。

また今後の直営食堂開設も視野に入れ、多目的ルームにも大きめのファンヒーターの設置を行いました。

それに伴い灯油タンクからの灯油共有経路の設置工事等も行い、最低限ではありますが生徒やスタッフ、足を運んでくださる保護者の皆様が快適に過ごし歓談できる環境の確保をすることができました。

工夫した点は子どもが使用する場所と工事、設置の兼合いを十分にスタッフ内で話し合い、経費を抑えながら十分な環境になるよう検討し設置したことです。

セミナーも盛況

セミナー風景

学習風景

暖房設備も整った学習ルーム

■活動の成果は？

新型感染症が流行し、さらにインフルエンザなどが流行する時期にもなり、感染拡大防止措置を十分に取る必要が強まりましたが、子どもたちは快適な環境でゆったりと勉強したり、本を読んだり体力回復のために休憩したり出来ていて、実際に「落ち着く」「過ごしやすくリラックスできる」「引きこもって家にいるよりずっといい」などの声をいただいており、保護者の皆様からも、「安心して子どもをみてもらえる場所がとてもありがたい」「この場をなくさないで欲しい」という声を頂戴しています。

多目的ルームに関してはフリースクール利用者や、利用者予備軍である当事者などに向けたイベントの開催を行うことが出来、フリースクールを知ってもらう機会に繋がっています。

新型感染症拡大前は、実際にセミナーや子ども向けのゲームイベントなどを開催しましたが、部屋いっぱいになる参加者の方が集まってくださって盛況でした。

また会議等にも利用出来る状況なので地域や行政、他団体の方からは「利用料を支払っても良いから使用させてくれないから?」などの声があり現在検討中です。

助成金がプロジェクトの充実化･ステップアップに非常に役立ちました。

何より子どもを安心して過ごさせることが出来る場所という認識を持ってもらえるようになったことが一番です。

現在利用している子どもは、しっかりと休憩をし、学習ボランティアや学生ボランティアたちと楽しく、時にはしっかりと勉強をしたりすることで、まさに「自分は自分で良い」という自己肯定感を取り戻し、中学受験に向けて希望を持ち未来に向けて進むようになりました。保護者からも「もともとは明るく元気な子だったが、最近だいぶ戻って来ているし、放課後は学校に宿題を持って行けるようにもなった。」ととても喜んでいます。

そして、多目的ルームに関しては、新型感染症拡大の影響で食堂の運営は難しいと考えていますが、会議室やイベント会場としての利用等について、「利用料を支払っても良いから使用させてくれないか?」などの声があることから、更なる利用方法や収益に繋がる使い方なども検討出来るようになりました。

実際に具体的な使用方法や利用料金等の検討について会議等を開き検討しており、ステップアップになったと、ありがたく感謝しております。

収穫体験を通して食育

家庭菜園も意欲的に

ゲームイベントも開催

パーティの準備

団体からのコメント

　御社の助成によってストーブやエアコンを取り付けることが出来、現在通って来てくれている子どもが、季節、時間問わず気持ちよく学習したり、疲れた時は大の字になって休んだりでき、日々元の元気だった状態を取り戻しながら、今は中学受験に向けて頑張れるようになりました。所属小学校での出席日数の扱いについても、学校長といい方向での話が進んでおり、卒業、進学に向けて、本人も保護者も大変希望を持てる状況となりました。
　その経験や繋がりを今後さらに活かして、同様のケースの子どもたちへの手厚いサポートを拡充し、地域住民や学校･教育委員会等にも活動の内容をこれまで以上に知っていただけるような展開をしていきます。
　また、新型感染症拡大に伴い、オンラインを活用した学習支援や、面談、セミナー等に力を入れて、家から出られない、学校に行けない状況になっても、学習や社会との繋がりを切ることなく、子どもたちや保護者のサポートが出来る取組をします。
　事業の実施にあたり、やはりこれまで同様資金面、人員面はなかなか確保が難しい課題です。

　最大の課題はやはり財政面です。また適切な人員の確保も大変難しいです。
　低所得家庭が多い地方でのフリースクール運営は、立上げて三年目となる今年度も切に痛感しました。企業の寄付についての案件も少しずつ進んでいましたが、災害や感染症拡大等により企業もまた大打撃を受けると、寄付は難しい状況となります。そのときに利用料を上げるのも、地方の家庭には厳しいです。
　公共機関ではないため、運営のための最低限の経費、特に人件費の捻出は非常に難しく、安定的な経営を目指したいですが、反面そこが大きな課題です。

　今後の活動方針としては、これまで同様、未来ある子どもたちの疲れた状態（不登校や学校に行きづらい状態）の子どもたちと、その保護者の逃げ場となり、未来が見えるようにサポートし、一緒に進んで行きながら、学校や社会に戻る手伝いをします。
　目標は、今年度は通学の利用者が1名、オンライン学習利用者が1名となっていますが、利用者10名/月を目標にすると共に、出席日数の扱いの事例や進学、就職等の事例を増やして行きます。さらに、今回の感染症拡大のような災害があった際に、慌てることなく子どもたちのサポートが出来る環境を整えることも重要な目標とします。

より、そう、ちから。
東北電力
© Tohoku-Electric Power Co.,Inc. All Rights Reserved.